

賢くりッチに生きる女性の情報紙

みゆ〜ず



月刊みゆ〜ず・暮らしの情報のバックナンバーはホームページでご覧になれます。

明るい インドア人間 ～エミの日記～

働く女性紹介編 その26

「八女市立福島小学校 介助員
クーリカン 智子さん」



"Big Smile"の言葉がぴったりの智子さん。はつらつとした笑顔で周囲を元気にしてくれます。私の彼女に対するイメージは、何れともあれ「芸術家」。九州造形短期大学のグラフィックデザイン科を卒業後、シューズメーカーのデザイナー、アート教室で絵画やクラフト指導などを経て、現在に至ります。

彼女のみずみずしい感性から生まれる作品は、ある時はシャープに、ある時はとってもキュートでポップだったり、様々な顔を見せてくれる素敵なものばかりです。

2005年から2007年までの2年間は、カナダに在住。その間に描きためた絵は、30枚ほどにも及び、現地で個展を2回開きました。墨を使った黒と白のイラストレーションや、着物の柄をイメージするような、和のテイストを取り入れた作品は、多くの話題を呼びました。

福島小学校では、介助員として、主になかよし学級の子供たちとかかわっています。「子供たちが、『できた!』と言って喜んでくれた時や、日々成長していく姿を見ることが、一番うれしい。また、いろいろな子供の悩み事や、友達とのケンカの相談にのったりもしたいですね。」と言う智子さん。

趣味は、絵を描くことと英会話。また、手話にも興味を持っています。福祉会館で手話を学ぶ機会があり、それをきっかけに、英語の手話も習えたらなあ～と想いは広がります。

「私の夢は、いっぱいあるんですよ～!」と言うだけあります。マイホームを建てたい。家で英語を教えたり、託児所を開きたい。そのためにも、保育士の免許を取る勉強をしたい。カフェも開きたいし、絵の個展も開きたい。外国にも住みたい… WOW!!
パワフルな智子さんの夢は尽きません。(大坪 エミ)

おしゃれノート

桜の花もちょうど見ごろで、お出かけが嬉しい季節になりました。今回は、そんな外出が楽しくなる今年の春夏のファッショントレンドをご紹介します。

まずは、モノトーンが主流だった冬から、カラフルな春へとシフト! これまでは、春といえばパステルカラーが定番でしたが、今年の春夏はビビッドカラーに注目です。イエローやグリーン、ターコイズブルーなど、まるでカラーパレットからそのまま抜け出したようなカラフルな色を、スプリングコートやジャケットに取り入れるファッションが人気のようです。また70年代風の、ガリーでレトロな花柄などのボヘミアンスタイルが復活。チロリアンテープやクラフト刺繍をあしらった、Aラインのワンピースやチュニックを店頭でよく見かけます。花柄の他にも、アースプリントや幾何学模様など、柄物が流行の兆しです。今期トレンドのもう一つのキーワードが「透明感」。シフォンやオーガンジーなど透ける素材に注目が集まっています。ティアードタイプなどのふんわりスカートは、光沢を放つ柔らかい質感やほどよいボリューム感がとっても春らしいアイテムです。春といっても、まだまだ気温差が激しいので、薄いシャツなどを重ねる、レイヤード(重ね着)スタイルも楽しめそうです。

外に出かけることは、キレイを保つ一番の秘訣。うきうきと出かけたいくなるようなおしゃれをして、春を満喫してくださいね。(Pico)

“Say what?”

伊之坂ミキ



私が初めてテレビゲームと出会ったのが10才の時でした。「アタリ」というゲームでした。ゲームのキャラクターが凸の形でとてもかんたんなゲームだったが友達皆がハマっていました。早おくり、25年後の今:快がテレビゲームと出会ったのがニントドのWiiです。名前から考えて、面白いものです。Wiiの発音が「私達: We」と同じだけではなく「ワイワイ: wee!」と一緒に。Wiiをやったことがある人なら面白さと楽しさがよくわかります。「私達のWe」は今までテレビゲームが基本的に2人しかできなかったのを最高4人までできるようにしています。「ワイワイのwee」が本当に面白いゲームがいっぱいで体まで動かしてせいこうしないところが楽しいです。快が非常に気に入っているのは「マリオパーティ」というゲームです(写真はマリオパーティのキャラクター「ゴースト」のまね)まけずぎらいの彼は必死に覚えようとします。今年5才になるくせに親より上手にできたりしています。うちにはWiiを買っていませんが時間の問題でしょう。その時まで友達のところでうでをみがいて、皆に勝つように練習が続く快です。

全国から募集したエピソード優秀作品76点を収録した作品集が完成!

「思いやりのリレー」

～親から子へ 子どもから未来へ、伝えたいこと残したいこと～

全労済では、昨年「思いやりのリレー」と題して、大人が子どもに伝えていきたい経験や思い、将来の子どもたちに残したい風景・伝統、また子どもたちから未来へ向けて伝えたいメッセージなどのエピソードを募集しました。

全国からメールとハガキによる4,849通もの応募をいただき、その中から大賞以下各賞を決定し、各受賞作品32点と選外優秀作品44点、計76作品を掲載した作品集(小冊子)を作成しました。

大賞に選ばれたのは、群馬県在住33歳女性の作品、「背中の子」です。幼い頃、忙しい母の背後でイタズラばかりする様子をすぐに察知する母の背中。そして、ご自身も母親になり、背中の子はイタズラを見つけるためではなく、我が子の安全を見つめる愛情の目であったことに気づき、今では、その「背中の子」で愛しい息子を見守っている、という愛情のリレーを綴ったエピソードです。

この他にも、親から子へ、子から親への思い、友達・同僚への思い、未来へ向けたメッセージ、残したい自然、また命の大切さや伝えたい伝統など、『思いやりのリレー』にまつわる76のエピソードを紹介しています。

今回、この作品集(小冊子)を、10,000名の皆さまにプレゼントいたします。

◆応募方法

●ハガキ、または全労済ホームページ上の専用

申込フォームから応募

●ハガキの場合、〒、住所、氏名(フリガナ)、年齢、職業、電話番号を明記の上、下記の宛先までご応募ください。

〒108-0073 東京都港区三田3-3-8
サンフィールド11ビル3F
全労済「思いやりのリレー」小冊子
みゆ〜ず 係

●全労済HP専用申込フォームからURL
<http://www.zenrosai.coop/omoiyari/>

◆締切日:2008年4月30日(水)消印有効

◆当選発表:応募者多数の場合は抽選の上、小冊子の発送をもって代えさせていただきます。



一障害福祉
なんでも相談室ー
ちくたくネット



しろたえぎく
(花言葉はあなたを支える)

筑後市野町680-1(筑後市総合福祉センター内)
☎0942-52-6699

「ひとりで悩まないでツライ
ちくたくネットは小さな悩みから
あなたを支えます。」

格差社会 笑えない時代

「障害(児)者なんでも相談室」が設立され10ヶ月たちました。今後、新規相談者の掘り起こしが課題です。相

談室にいと格差社会を痛切に感じます。相談者の多くは障害基礎年金1級約99万円(年間)2級約79万円(年間)で生活しています。障害者自立支援法には就労し、年金プラス賃金の生活を政府は夢見ていたようですが、不景気で中々就職に結びつきません。やっと就職出来てもパートが多数を占めます。ボーナスも無く最低賃金の保障があれば良いほうです。それでも一日中家にいるよりもとの思いで勤めに行っている人が多くいます。《格差社会》の典型だと思います。障害(児)者も保護者が元気で同居中は良いのですが、保護者が病気になる時の看病や介護が課題となります。保護者が亡くなり障害者がひとり暮らしになった時、地域のご協力が必要です。

3月には「地域自立支援協議会」が立ち上がりました。一人ひとりの課題が解決に繋がるための協議会です。(北)